

氏名	公受 伸之
学位の種類	博士 (医学)
学位記番号	乙第259号
学位授与年月日	平成20年3月21日
審査委員	主査 教授 益田 順一 副査 教授 紫藤 治 副査 教授 山口 修平

## 論文審査の結果の要旨

**(研究の背景と目的)** 近年、動脈硬化と感染症との関連が注目されているが、高度な粥状動脈硬化症を合併する透析患者において、最も頻度の高い感染症である C 型肝炎ウイルス (HCV) での検討は殆ど行われていない。一方、脈波伝播速度 (Pulse Wave Velocity; PWV) は非侵襲的に簡便に動脈の硬さを把握できる検査法であり、透析患者の予後を知る上で有用な検査であるとされている。そこで透析患者における動脈の硬さと心脳血管事故 (CVD) に対する HCV の関与について解析を行った。**(対象と方法)** 対象は血液透析患者 94 名 (年齢 64 才、男性 60 名)。平均透析期間は 12 年。基礎疾患は糸球体腎炎 47%、糖尿病 24%。心脳血管疾患の既往は 40%、HCV-RNA は 18% にみられた。検討項目は年齢、透析期間、喫煙、CVD 既往、血圧、Ht、Alb、Ca、P、HbA1c、ALT、脂質、Kt/V、左室心筋重量係数 (LVMI)、PWV (心臓から大腿動脈) 等を指標とした。2 年の観察期間中、死亡 5 名 (脳出血 1 例、心突然死 1 例、肺炎 2 例、肝硬変 1 例)、非致死性心脳血管イベント 11 名 (末梢動脈形成術 2 例、心不全入院 2 例、脳梗塞 1 例、急性心筋梗塞 2 例、狭心症 <PCI, CABG> 3 例、新規狭心症 1 例) であった。PWV と致死性非致死性心脳血管イベントの規定因子を多変量解析で検討した。**(結果)** 非透析患者 185 名に比し透析患者では有意に PWV が速かった (10.0 vs. 8.3 m/sec,  $p < 0.0001$ )。また、HCV 感染群では透析期間が有意に長く、TC は低く、ALT は高く、PWV は速かった。多変量解析の結果 (透析期間等で補正)、PWV の規定因子として平均血圧、HbA1c、HCV 感染が独立して関与していた。また、イベント群では HCV 感染、糖尿病や CVD 合併が多く、LVMI が高値で、PWV が速かった。多変量解析の結果、イベントに対して HCV-RNA、DM、CVD 既往、LVMI が独立した予測因子であった。Kaplan-Meier 生存分析でも HCV 感染者は有意にイベントが多かった。**(考察と結論)** HCV と動脈硬化との関連については賛否両論があり、まだ結論には達していないが、我が国での透析患者を対象とした研究はほとんどなく、今回の研究によって HCV 感染が心脳血管事故に有意な相関を認めたと結論をえたことは、透析患者における動脈硬化の危険因子を解析する上で重要な新しい知見である。また、この相関をもたらした機序としては、1) 免疫学的機序、2) 酸化ストレス、3) 脂質、糖代謝などの関与等が考えられる。以上のことから、血液透析患者における HCV 感染は動脈硬化とその結果生じる心血管イベントに対する危険因子と考えられた。